

## 国内製造部門での環境保全活動

### 省資源・リサイクルの取り組み

高リサイクル率を維持しつつ、廃棄物発生量を減らす取り組みをしています。

#### 総物質投入量の低減

製造部門の主な原材料には、ウールを中心とした天然繊維、ポリエステルを中心とした合成繊維、染料・薬剤があります。

これら原材料の投入量を低減させるために、製造工程では歩留まりを高く維持することや不良率低減に継続的に取り組んでいます。

#### 物質の循環利用

製造過程で発生する篠くずや短い毛などの副産物を、紡毛原料としてほぼ100%再利用するシステムを確立しています。

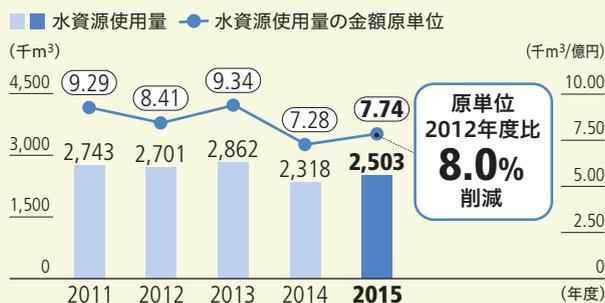
また、セーターや手編み糸などを包装する包装材の使用量は年間約5.8トンで、これら容器包装材は(公財)日本容器包装リサイクル協会に委託して、リサイクル(再商品化)しています。

#### 水資源使用量の削減

使用する水資源には上水・工業用水・地下水があります。2015年度の水資源使用量は2012年度比で7.4%減少し、原単位は8.0%削減しました。

この主な要因は、老朽化した用水配管の補修を行ったことです。今後も、配管システムの点検・改修、節水対策を推進し、水資源使用量の削減に努めます。

#### 水資源使用量と原単位



#### 廃棄物の削減

廃棄物最終処分量原単位は「2012年度比97.0%以下」の目標に対して、実績は「124.2%」と大幅に増加しました。

これは、2014~2015年度にアンビック(株)にて、生産ラインの再編を行い、老朽化した生産設備を廃棄物として処分し、一宮事業所では国内生産拠点再編に伴う工事で廃棄物を処分したことが原因です。

2016度以降は、廃棄物処分量は減少する見込みです。

#### 廃棄物発生量・リサイクル量・最終処分量と原単位

